

令和元年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

令和2年5月

米子市（鳥取県）

○計画期間：平成27年12月～令和3年3月（5年4月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和元年度終了時点（令和2年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、前基本計画（平成20年11月～平成26年3月）においての中心市街地の現状分析及び取組効果の検証を踏まえ、平成27年12月に新たな基本計画の認定を受けた。「人でにぎわうまちづくり」、「ふるさとを活かしたまちづくり」、「安心して暮らせるまちづくり」の3つの方針のもとで事業を実施することにより、「人が集まり、歩いて楽しめ、元気に暮らせる中心市街地」を目指している。

本市の中心市街地は、地域における行政、経済、文化、教育、医療、福祉、娯楽など、多様な都市機能が高度に集積されるとともに、鳥取県西部圏域の道路、鉄道等の交通網が中心市街地を起点に整備され、圏域の様々な便益を提供する「まちの心臓」としての役割も担ってきた。

しかしながら、近年においては、少子高齢化による定住人口の減少のほか、車社会の進展、郊外への大型店の進出等により、中心市街地に集積していたオフィス機能や商業機能も低下してきている。前計画の取組により、中心市街地においては商業環境の整備、文化施設の拡充等による一定の成果が見られるが、引き続き都市機能の増進及び社会・経済活力の向上を総合的かつ一体的に推進する必要がある。

最近の状況としては、2核1モールの一つの核である角盤町周辺エリアにおいては、平成28年1月の「やよいデパート」撤退から、再活性化に向けた様々な取組が行われているところだが、令和元年度は「える・もーる駐車場再開発事業」、「旧米子高島屋東館再開発事業」が民間資本により実施され、情報発信機能による誘客の強化、新たなにぎわいの拠点となる体験型複合施設の整備が進んだ。

一方、もう一つの核である米子駅周辺エリアについては、平成30年度に進出が決定したホテルの建設が進み、令和2年6月オープン予定となっている。また、新たなホテルの進出も決まり、来街者の増加による一層の地域活性化が期待されている。

これら二つのエリアにおいて、核にふさわしい集客・回遊ゾーンを構築することにより、その波及効果を中心市街地全体に行きわたらせ、活性化に繋げるべく、事業者と関係機関が一体となって効果的な事業実施に向け取り組むこととしている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日 毎年度3月31日)

(中心市街 地区域)	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)
人口	5,004人	4,942人	4,885人	4,770人	4,672人	4,594人
人口増減数	-75人	-62人	-57人	-115人	-98人	-78人
自然増減数	-34人	-64人	-45人	-70人	-66人	-65人
社会増減数	-41人	+2人	-12人	-45人	-32人	-13人
転入者数	314人	387人	329人	304人	299人	312人

2. 令和元年度を取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

米子市中心市街地活性化基本計画(新計画)で定める2核のうちの1つである「角盤町周辺エリア」においては、角盤町商店街振興組合が主体となり鳥取県や米子市、商工団体、民間事業者、当協議会等から組織される「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト」にて、閉店した大型店跡地に民間事業者が整備した駐車場と商店街アーケード内を一体的に活用したソフト事業(地ビールフェスタ、つながるマルシェ等)の定期開催や米子市公会堂等の近隣文化施設との連携に取り組み、新たな賑わい創出につなげている。また、角盤町周辺エリアの空き店舗と新規出店者をつなぐ「米子市角盤町エリア復活プロジェクト・新規出店チャレンジャー」も開始され、こちらの取組は空き店舗減少の一助となっている。

さらに、中心市街地の他のエリアにおいては、訪日外国人及び来訪者増加を睨み、空き店舗を活用したゲストハウスの整備が進み2店舗が営業している。

また、もう1つの核である「米子駅周辺エリア」では、米子駅南北自由通路等整備事業及び駅南広場整備事業の根幹を成す自由通路及び新駅舎が令和4年度完成予定とされている。昨年米子市が「米子駅活性化専門家委員会」を設置し検討が行われ、当協議会でもこの検討された内容をもとに、山陰で一番の交通結節点である優位性を活かした「中心市街地活性化」の可能性について、米子市や事業導入を目的に民間事業者等と検討を行った。

引き続き今後もこのような取組を米子市及び当協議会が連携して行い、積極的な事業推進を図ることにより、中心市街地活性化基本計画が進捗していくものと評価している。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
人が集いにぎわうまち	歩行者等通行量 (自転車含む)	12,945 人 (H26)	13,200 人 (R2)	10,714 人 (R1)	C	③	③
	駐車場の利用台数 (時間貸しのみ)	1,498,308 台 (H26)	1,515,000 台 (R2)	1,274,002 台 (R1)	C	③	③
歴史や文化、自然に触れ合えるまち	文化施設の利用者数	1,138,317 人 (H25)	1,140,000 人 (R2)	1,173,491 人 (H30)	A	③	③
	下町観光ガイドの利用者数	956 人 (H26)	1,380 人 (R2)	4,733 人 (R1)	A	①	①
住みたくなるまち	人口の社会増減	H22～27 年の平均 －5 人 (3 月末時点)	H28～R3 年の平均をプラスに (3 月末時点)	H28～R2 年の平均 －20 人 (3 月末時点)	C	②	②

＜基準値からの改善状況＞

A: 目標達成 B: 基準値達成 C: 基準値未達成

＜取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類＞

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

【歩行者等通行量について】

角盤町エリアについては、「やよいデパート」の撤退以降大きく減少していたが、「ひまわり駐車場」の一部を活用したソフト事業や、「える・もーる駐車場再開発事業」、「旧米子高島屋東館再開発事業」など、まちの新たな動きにより活性化の兆しが見られ、通行量は下げ止まりとなった。米子駅周辺エリアにおいては、民間の投資活動が盛んになってきており、前年に引き続き、良好な結果となっている。今後も、角盤町エリアと米子駅周辺エリアの二つの核を基点に、民間投資による新たな賑わいを中心市街地全体に最大限波及させることで、目標達成可能と見込まれる。

【駐車場の利用台数について】

駐車場利用台数の最新値は、基準年値ならびに前年と比較すると減少している。この要因としては、米子駅前地下駐車場、ならびに民間事業者が所有する駐車場のうち 1 つが令和元年 7 月まで改修工事を行っていたこと、米子コンベンションセンターの一部改修工事に伴う利用停

止の影響により周辺駐車場の利用者数が減少したこと、「やよいデパート」跡地に設置された「ひまわり駐車場」（調査対象外）への利用者が分散したことによる駐車場利用台数減少が考えられる。

しかしながら角盤町エリアでは、平成 30 年度に官民一体となり組織された「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト」が中心となったソフト事業の継続した展開や、「える・もーる駐車場再開発事業」、「旧米子高島屋東館再開発事業」など民間主導の新たな事業により、活性化の兆しがみられている。また、米子駅周辺エリアにおいても、近年の飲食店の出店や、相次ぐホテルの進出など継続的な民間の投資がみられており、各駐車場ならびに、コンベンションセンターの改修が完了し、民間の投資活動との相乗効果によって駐車場利用台数の増加も期待されることから、目標達成は可能であると見込まれる。

【文化施設の利用者数について】

文化施設の利用者数については概ね好調に推移しており、最新値は前年に比べ 9 0, 4 1 8 人増加した。これは、コンベンションセンターの改修工事の一部が終わり、利用者が戻ったこと、文化ホールでのイベント利用者数が増加したことが要因として挙げられる。今後もコンベンションセンターは順次、改修工事が行われる予定ではあるが、その他の施設の利用者数は美術館を除き前年よりも増加しており、文化施設利用者の底上げができていることから、目標達成は可能であると見込まれる。

【下町観光ガイドの利用者数について】

観光ガイド事業は、平成 3 0 年 4 月から民間の団体である「米子観光まちづくり公社」が行うことになった。以降、個人旅行者のニーズをより一層取り込むことに成功し、利用者数は大幅に増加した。その結果、目標値を越える数値を達成することができた。今後も官民が連携して、利用者数の増加に努めていく。

【人口の社会増減について】

空き家を活用した事業においてマッチングに至らなかったこと、民間共同住宅の建設が少なかったことも影響し、中心市街地人口の社会動態については基準値を下回る結果となった。今後も引き続き中心市街地の有利性を情報発信し、民間共同住宅の建設や空き家活用を促していく。なお、現状では目標達成可能とは見込まれず、対策の検討を引き続き重ねる。

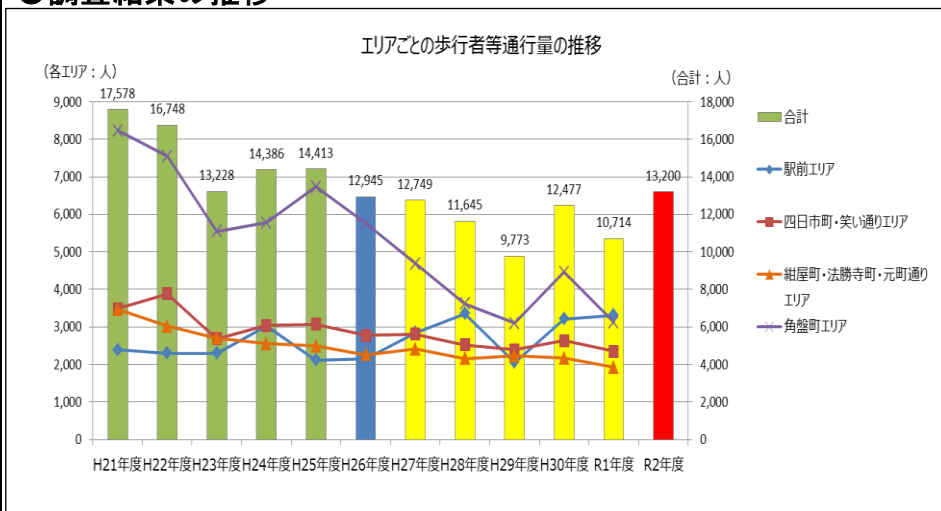
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施から変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者等通行量（自転車を含む）」※目標設定の考え方基本計画 P58～P65 参照

●調査結果の推移



年	(人／年度)
H26	12,945 (基準年値)
H27	12,749
H28	11,645
H29	9,773
H30	12,477
R1	10,714
R2	13,200 (目標値)

※調査方法： 平日、休日の6日間実施。調査地点12地点において、調査時間を10時～17時までとし、毎時30分間計測。平日平均値、休日平均値を合計した。

※調査月： 令和元年10月・11月

※調査主体： 米子市

※調査対象： 自転車を含む中学生以上の歩行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. にぎわいのある商店街づくり事業（米子市）

事業実施期間	平成17年度～【実施中】		
事業概要	空き店舗に出店する事業者に店舗改修費等の助成を行い、商店街の魅力や集客力を高めるとともに、空き店舗の解消を図る。		
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成27年度～令和2年度）		
事業効果及び進捗状況	・新規出店見込み数と実績数		
	エリア名	見込み (H27～R2年度)	実績 (H27～R1年度)
	法勝寺町・元町周辺	5店舗	4店舗
	四日市町周辺	8店舗	4店舗
	角盤町周辺	3店舗	2店舗
	その他地区	4店舗	2店舗
	合計	20店舗	12店舗
令和元年度は、四日市町周辺に3店舗の出店があった。また、他事業の活用によって角盤町周辺に新たな出店もあり、新たな賑わいの創出が期待される。当該事業としては完了することにより200人の歩行者等通行量の増加を見込んでいるが、それら他事業との相乗効果により、まちな			

	かの賑わい創出につなげたい。
事業の今後について	引き続き空き店舗の出店する事業者を積極的に募集し、商店街の魅力や集客力を高めるとともに、空き店舗の解消を図る。

②. 新生米子市立図書館の運営（米子市）

事業実施期間	平成 25 年度～ 【実施中】
事業概要	図書の貸出しのみならず、ビジネス支援、多目的スペースを活用した市民の生涯学習の発表の機会の提供などを含めた図書館の運営
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	来館者数については、平成 25 年 8 月のリニューアルオープンから堅調に推移しており、平成 30 年度の利用者数は計画策定後最多となっている。進捗状況として、図書館の利用案内（パンフレット）、ホームページ、図書館だより（毎月 1 回発行）等に多目的スペースの PR やイベント案内を掲載し、特定のテーマに特化した展示コーナーを増やすなど利用促進に努め、多様なニーズに対応している。また公式 SNS（Facebook、Twitter、Instagram）を開設し、イベント情報や研修室開放状況など即時性の高い情報を提供することで、幅広い年齢層の新たな図書館利用者の拡大に努めている。
事業の今後について	図書館来館者数は堅調に推移しており、引き続き利用者の拡大に努める。

③. 山陰歴史館整備事業（米子市）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成 28 年度～平成 31 年度]
事業概要	「伯耆の国よなご文化創造計画（後期計画）」に基づき、老朽化している山陰歴史館を整備することにより、来館者や利用者の拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度に米子市庁内プロジェクトチームを組織し、施設の利活用の検討を重ねている。平成 31 年度は、多彩なソフト事業の展開を通して入館者数の増加につなげた。引き続き、まちなかの賑わい創出につながる施設の利活用の検討を重ねていく。
事業の今後について	整備については、山陰歴史館がある市指定文化財建物の利活用に資するためのサウンディング調査を実施中であり、その結果も勘案しながら、今後の整備の方向性を検討していく。利用者の拡大については、企画展などを充実させるとともに、「米子城・魅せる！プロジェクト事業」等との連携を図り、山陰歴史館のさらなる利用拡大を図っていく。

④. 米子駅南北自由通路等整備事業（米子市）

事業実施期間	平成26年度～令和4年度 【実施中】
事業概要	鉄道で分断されている米子駅の南北地区をバリアフリー化に配慮した自由通路で連絡し、歩行者等の安全性・利便性の向上や駅周辺の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（国土交通省）（平成27年度） 防災・安全交付金（国土交通省）（平成28年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	平成26年度 事前調査 平成27年度 予備設計及び補償予備調査 平成28年度 補償本調査及び都市計画決定、詳細設計（駅南広場） 支障移転補償（H28～R4年度） 平成30年度～令和元年度 詳細設計（自由通路） 令和 2年度 工事着手（予定） 令和 4年度 竣工（予定） 当該事業については、当初の計画より遅れが生じ、計画期間内での効果の発現は困難であると想定される。ただし、事業が完了することにより360人の通行量増加を見込んでおり、まちなかの賑わい創出につながる。
事業の今後について	事業はおおむね順調に進捗しており、引き続き、適切な事業管理に努める。

⑤. 民間共同住宅建設事業（民間事業者）

事業実施期間	平成27年度～ 【実施中】
事業概要	民間事業者による共同住宅の建設
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年度 3棟（110戸） 竣工 平成28年度 3棟（48戸） 竣工 平成29年度 1棟（3戸） 竣工 平成30年度 1棟（18戸） 竣工 令和元年度 建設なし 令和元年度においては、計画範囲内での民間共同住宅の建設がなかったが、現在1棟（55戸）の建設が進んでおり、次回調査時にこれらの民間共同住宅の効果が現れることを期待している。
事業の今後について	中心市街地の高い機能性や利便性を情報発信し、民間事業者による開発の後押しをしていく。

⑥. 商都米子再興戦略・キッズサポート施設整備事業（（株）米子高島屋）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～]
--------	-------------------------

事業概要	米子高島屋東館の空床スペースを改装し、子どもの遊びを通じた知育・体育プログラムを提供する施設の整備、子育て中の人のニーズが満たせる子育てカフェ（ママカフェ）の設置、育児グッズや育児玩具を集積した売場の新設、地元のケーブルテレビ局と連携したスタジオの開設など整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業のうち先導的・実証的事业（経済産業省）（平成28年度）
事業効果及び進捗状況	平成28年度実施に向け申請していたが不採択となり、内容をブラッシュアップして事業実施に向け取り組むこととしていたところ、令和元年度に事業計画場所であった旧米子高島屋東館が体験型複合施設である「GOOD BLESS GARDEN」に整備された。
事業の今後について	事業内容の見直しが進み、「GOOD BLESS GARDEN」が整備されたが、今後も周辺で実施されるソフト事業と連携・連動し、エリア全体で相乗効果を発揮できるよう「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト」で検討を重ねる。

⑦. 商都米子再興戦略・商業施設整備事業（(株)リサ・クリエイティブプロダクツ）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～]
事業概要	子ども連れでも気軽に飲食等ができ、米子高島屋が整備を予定しているキッズサポート施設との相乗効果が期待できる商業施設の整備。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業のうち先導的・実証的事业（経済産業省）（平成28年度～）
事業効果及び進捗状況	相乗効果を狙っていた米子高島屋の「商都米子再興戦略・キッズサポート施設整備事業」の事業見直し、同エリアにある「やよいデパート」の撤退などにより、角盤町エリア全体の事業再構築が必要となり、事業実施に至っていない。
事業の今後について	現在は、「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」におけるエリア活性化策の検討を終え、当該事業も事業内容の見直しに向かって個別の検討が進んでいる。

⑧. よなごまちなかコミュニティ活性化支援事業（米子市）

事業実施期間	平成27年度～ 【実施中】
事業概要	地域活性化に資する生活支援サービスやコミュニティ拠点施設・ゲストハウスの運営、コミュニティビジネスの起業等の取組に要する経費を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗	平成27年度、平成29年度にそれぞれ1軒のコミュニティスペース・

捗状況	ゲストハウスがオープンし順調に運営されている。しかし、平成30年度、平成31年度については、相談はあるもののマッチングに至らず、当該事業としての進捗はなかった。なお、当該事業が完了することにより50人の通行量増加を見込んでおり、今後も継続して情報発信・事業プレイヤーの掘り起こしを行い、まちなかの賑わい創出につなげたい。
事業の今後について	積極的な情報発信を通じて、事業プレイヤーの掘り起こしを行い、事業実施につなげたい。

⑨. ひまわり駐車場整備事業（(株)アバロン）【平成29年度追加】

事業実施期間	平成29年度 【済】
事業概要	電気自動車充電設備を備えた、広い駐車スペースの平面駐車場の整備と、植栽による良好な景観形成を推進する事業 駐車台数 160台 電気自動車充電設備 6基(12台分) 植栽 総延長=230.7m
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	駐車スペースが広く環境に配慮された平面駐車場を整備することで、中心市街地の商業施設、文化施設等を訪れる人の利便性の向上を図り、まちなかの賑わい創出につなげる。
事業の今後について	整備は平成29年度に完了し、現在は、駐車場としての活用だけでなく、角盤町エリアで実施しているイベント企画の会場にも活用されている。今後も積極的な活用が見込まれている。

⑩. 道笑町2丁目ゲストハウス整備事業（山陰ステキ不動産）【平成29年度追加】

事業実施期間	平成29年度 【済】
事業概要	奥行き長い町家形式の空き家を活用し、ゲストハウス及びシェアオフィスを複合的に整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	空き家の活用によりゲストハウス兼コミュニティスペースを整備することで、地域コミュニティ活性化に寄与するとともに、インバウンド等来街者の多様なニーズに応え、賑わいや交流の創出を図る。
事業の今後について	整備は平成29年度に完了しており、インバウンド等来街者の増加や新たな交流の拠点としての機能が期待されている。

⑪. 旧高島屋東館再開発事業【令和元年度追加】

事業実施期間	令和元年度 【済】
事業概要	温浴施設、宿泊施設などを完備した体験型複合施設に整備することで、

	時代に沿った形の複合施設としてリ・デザインし、角盤町エリアのにぎわいの創出を図る。
国の支援措置名 及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進 捗状況	不採択となった商都米子再興戦略・キッズサポート施設整備事業に代わり、事業計画場所であった旧米子高島屋東館が体験型複合施設である「GOOD BLESS GARDEN」に整備された。米子市中心市街地活性化の核である角盤町における新たな拠点として、賑わい創出に大きく貢献している。
事業の今後につ いて	今後も周辺で実施されるソフト事業と連携・連動しエリア全体で相乗効果を発揮できるよう「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト」で検討を重ねる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

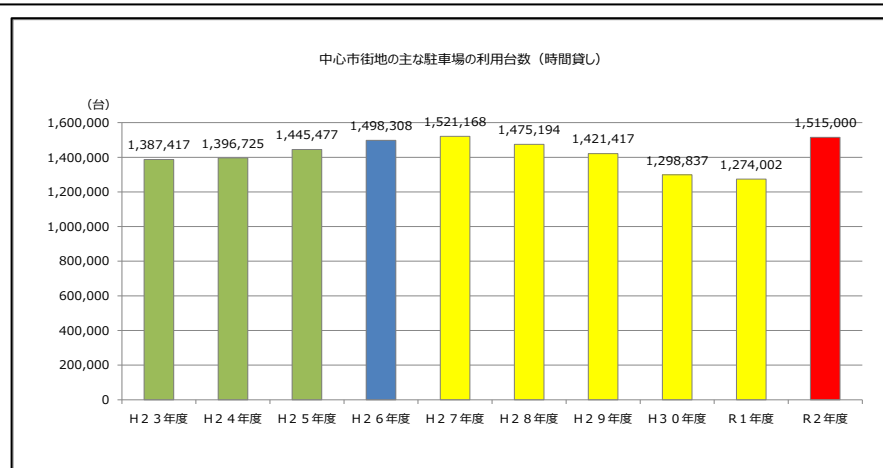
歩行者等通行量の最新値（令和元年10月・11月調査）は、基準年値と比較して約17%（2,231人）の減少、前年と比較しても約14%（1,763人）減少している。しかしながら、角盤町エリアでは「やよいデパート」の撤退以降大きく減少していた通行量は下げ止まりとなっており、「ひまわり駐車場」の一部を活用したソフト事業をはじめ、「える・もーる駐車場再開発事業」、「旧米子高島屋東館再開発事業」など民間主導の新たな事業により、活性化の兆しが見られている。

米子駅周辺エリアにおいても、民間の投資活動が盛んになってきており、平成30年度に進出決定、令和2年度から開業予定となるホテルに加え、新たに進出が決まったホテルもあり、新たな賑わいの創出が期待できる。

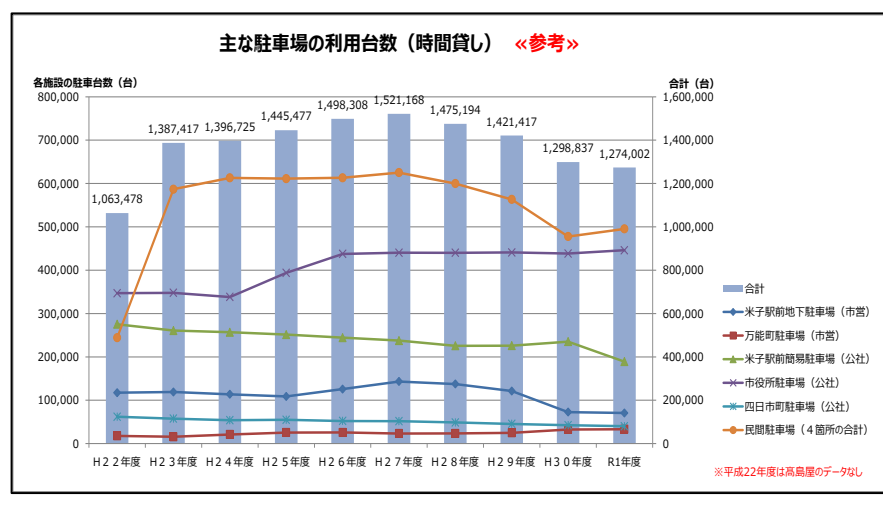
今後も、角盤町エリアと米子駅周辺エリアの二つの核を基点に、民間投資の賑わい創出効果を中心市街地全体に最大限波及させ、目標達成に向けて実績を伸ばしていきたい。

「駐車場の利用台数（時間貸しのみ）」※目標設定の考え方基本計画 P65～P69 参照

●調査結果の推移



年	（台／年度）
H26	1,498,308 （基準年値）
H27	1,521,168
H28	1,475,194
H29	1,421,417
H30	1,298,837
R 1	1,274,002
R 2	1,515,000 （目標値）



※調査方法： 公営・民間合わせて9箇所を設定し、各施設の所有者からの報告により把握

※調査月： 平成31年4月（前年度4月～3月の合計）

※調査主体： 米子市

※調査対象： 米子駅前地下駐車場（市営）、万能町駐車場（市営）、米子駅前簡易駐車場（公社）
市役所駐車場（公社）、四日市町駐車場（公社）、民間駐車場（4箇所）の計9箇所の時間貸しのみ

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰歴史館整備事業（米子市）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～平成31年度]
事業概要	「伯耆の国よなご文化創造計画（後期計画）」に基づき、老朽化している山陰歴史館を整備することにより、来館者や利用者の拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進	平成27年度に米子市庁内プロジェクトチームを組織し、施設の利活用

捗状況	の検討を重ねている。平成31年度は、多彩なソフト事業の展開を通して入館者数の増加につなげた。整備が完了することにより、724台／年の利用台数の増加を見込んでいる。
事業の今後について	整備については、山陰歴史館がある市指定文化財建物の利活用に資するためのサウンディング調査を実施中であり、その結果も勘案しながら、今後の整備の方向性を検討していく。利用者の拡大については、企画展などを充実させるとともに、「米子城・魅せる！プロジェクト事業」等との連携を図り、山陰歴史館のさらなる利用拡大を図っていく。

②. 商都米子再興戦略・キッズサポート施設整備事業（（株）米子高島屋）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～]
事業概要	米子高島屋東館の空床スペースを改装し、子どもの遊びを通じた知育・体育プログラムを提供する施設の整備、子育て中の人のニーズが満たせる子育てカフェ（ママカフェ）の設置、育児グッズや育児玩具を集積した売場の新設、地元のケーブルテレビ局と連携したスタジオの開設など整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業のうち先導的・実証的事业 (経済産業省) (平成28年度)
事業効果及び進捗状況	平成28年度実施に向け申請していたが不採択となり、内容をブラッシュアップして事業実施に向け取り組むこととしていたところ、令和元年度に事業計画場所であった旧米子高島屋東館が体験型複合施設である「GOOD BLESS GARDEN」に整備された。
事業の今後について	事業内容の見直しが進み、「GOOD BLESS GARDEN」が整備されたが、今後も周辺で実施されるソフト事業と連携・連動し、エリア全体で相乗効果を発揮できるよう「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト」で検討を重ねる。

③. にぎわいのある商店街づくり事業（米子市）

事業実施期間	平成17年度～ 【実施中】		
事業概要	空き店舗に出店する事業者到店舗改修費等の助成を行い、商店街の魅力や集客力を高めるとともに、空き店舗の解消を図る。		
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成27年度～令和2年度）		
事業効果及び進捗状況	・新規出店見込み数と実績数		
	エリア名	見込み (H27～R2年度)	実績 (H27～R1年度)
	法勝寺町・元町周辺	5店舗	4店舗
	四日市町周辺	8店舗	4店舗

	角盤町周辺	3 店舗	2 店舗
	その他地区	4 店舗	2 店舗
	合計	20 店舗	12 店舗
令和元年度は、四日市町周辺に3店舗の出店があった。また、他事業の活用によって角盤町周辺に新たな出店もあり、新たな賑わいの創出が期待される。当該事業としては完了することにより8,760台/年の利用台数増加を見込んでいるが、それら他事業との相乗効果により、まちなかの賑わい創出につなげたい。			
事業の今後について	引き続き空き店舗の出店する事業者を積極的に募集し、商店街の魅力や集客力を高めるとともに、空き店舗の解消を図る。		

④. 商都米子再興戦略・商業施設整備事業（(株)リサ・クリエイティブプロダクツ）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～]
事業概要	子ども連れでも気軽に飲食等ができ、米子高島屋が整備を予定しているキッズサポート施設との相乗効果が期待できる商業施設の整備。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成28年度～）
事業効果及び進捗状況	相乗効果を狙っていた米子高島屋の「商都米子再興戦略・キッズサポート施設整備事業」の事業見直し、同エリアにある「やよいデパート」の撤退などにより、角盤町エリア全体の事業再構築が必要となり、事業実施に至っていない。
事業の今後について	現在は、「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」におけるエリア活性化策の検討を終え、当該事業も事業内容の見直しに向かって個別の検討が進んでいる。

⑤. 公会堂利用促進事業（米子市）

事業実施期間	平成26年度～ 【実施中】
事業概要	ホールはもとより、ホワイエは市民ギャラリーやミニコンサート等、広場は憩いの場やフリーマーケット等、多目的なイベント利用への働きかけをし、来街者を増やす。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成26年3月のリニューアルオープン後、ホール利用に留まらず、ライブや夏まつり、イルミネーション点灯式などの様々なイベントが行われ、来街者数増に繋がっている。前庭は全面に芝生が張られて開放的な空間となり、令和元年度においても、盆踊大会会場などとして活用されている。さらには、米子商工会議所が実施する「米子グランマルシェ」など各種イベントの開催など、申請のある利用のみならず、市民の憩い

	の場としての効果も現れている。
事業の今後について	「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト」において、同エリアにおける官民の連携が積極的に図られており、公会堂利用促進は今後も進んでいくものと見込まれている。

⑥. 旧高島屋東館再開発事業【令和元年度追加】

事業実施期間	令和元年度 【済】
事業概要	温浴施設、宿泊施設などを完備した体験型複合施設に整備することで、時代に沿った形の複合施設としてリ・デザインし、角盤町エリアのにぎわいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	不採択となった商都米子再興戦略・キッズサポート施設整備事業に代わり、事業計画場所であった旧米子高島屋東館が体験型複合施設である「GOOD BLESS GARDEN」に整備された。米子市中心市街地活性化の核である角盤町における新たな拠点として、賑わい創出に大きく貢献している。
事業の今後について	今後も周辺で実施されるソフト事業と連携・連動しエリア全体で相乗効果を発揮できるよう「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト」で検討を重ねる。

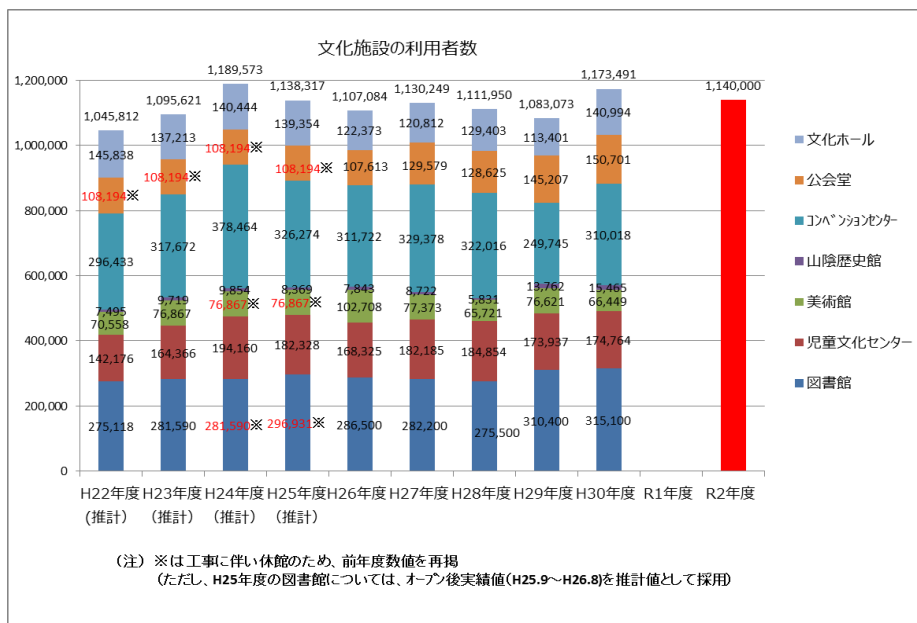
●目標達成の見通し及び今後の対策

駐車場利用台数の最新値は、基準年値と比較して約15%（224, 306台）の減少、前年と比較すると2%（24, 835台）減少している。これは、米子駅前地下駐車場、ならびに民間事業者が所有する駐車場のうち1つが令和元年7月まで改修工事を行っていたこと、米子コンベンションセンターの一部改修工事に伴う利用停止の影響により周辺駐車場の利用者数が減少したこと、「やよいデパート」跡地に設置された「ひまわり駐車場」（調査対象外）への利用者が分散したことが駐車場利用台数減少の要因と考えられる。

しかしながら角盤町エリアでは、平成30年度に官民一体となり組織された「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト」が中心となったソフト事業の継続した展開や、「える・もーる駐車場再開発事業」、「旧米子高島屋東館再開発事業」など民間主導の新たな事業により、活性化の兆しがみられている。また、米子駅周辺エリアにおいても、近年の飲食店の出店や、相次ぐホテルの進出など継続的な民間の投資がみられており、各駐車場ならびに、コンベンションセンターの改修が完了し、民間の投資活動との相乗効果によって駐車場利用台数の増加も期待されることから、目標達成は可能であると見込まれる。

「文化施設の利用者数について」 ※目標設定の考え方基本計画 P70～P73 参照

●調査結果の推移



年	(人／年度)
H25	1,138,317 (基準年値)
H26	1,107,084
H27	1,130,249
H28	1,111,950
H29	1,083,073
H30	1,173,491
R 1	
R 2	1,140,000 (目標値)

※調査方法： 事務報告等

※調査月： 令和元年9月（前年度4月～3月の合計）

※調査主体： 米子市

※調査対象： 文化ホール、公会堂、コンベンションセンター、山陰歴史館、美術館、児童文化センター
図書館の計7箇所の文化施設

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰歴史館整備事業（米子市）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～平成31年度]
事業概要	「伯耆の国よなご文化創造計画（後期計画）」に基づき、老朽化している山陰歴史館を整備することにより、来館者や利用者の拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年度に米子市庁内プロジェクトチームを組織し、施設の利活用の検討を重ねている。平成31年度は、多彩なソフト事業の展開を通して入館者数の増加につなげた。整備の完了により、1,987人／年の利用者の増加を見込んでいる。
事業の今後について	整備については、山陰歴史館がある市指定文化財建物の利活用に資するためのサウンディング調査を実施中であり、その結果も勘案しながら、今後の整備の方向性を検討していく。利用者の拡大については、企画展などを充実させるとともに、「米子城・魅せる！プロジェクト事業」等との連携を図り、山陰歴史館のさらなる利用拡大を図っていく。

②. 新生米子市立図書館の運営（米子市）

事業実施期間	平成 25 年度～ 【実施中】
事業概要	図書の出しのみならず、ビジネス支援、多目的スペースを活用した市民の生涯学習の発表の機会の提供などを含めた図書館の運営
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	来館者数については、平成 25 年 8 月のリニューアルオープンから堅調に推移しており、平成 30 年度の利用者数は計画策定後最多となっている。進捗状況として、図書館の利用案内（パンフレット）、ホームページ、図書館だより（毎月 1 回発行）等に多目的スペースの PR やイベント案内を掲載し、特定のテーマに特化した展示コーナーを増やすなど利用促進に努め、多様なニーズに対応している。また公式 SNS（Facebook、Twitter、Instagram）を開設し、イベント情報や研修室開放状況など即時性の高い情報を提供することで、幅広い年齢層の新たな図書館利用者の拡大に努めている。
事業の今後について	図書館来館者数は堅調に推移しており、引き続き利用者の拡大に努める。

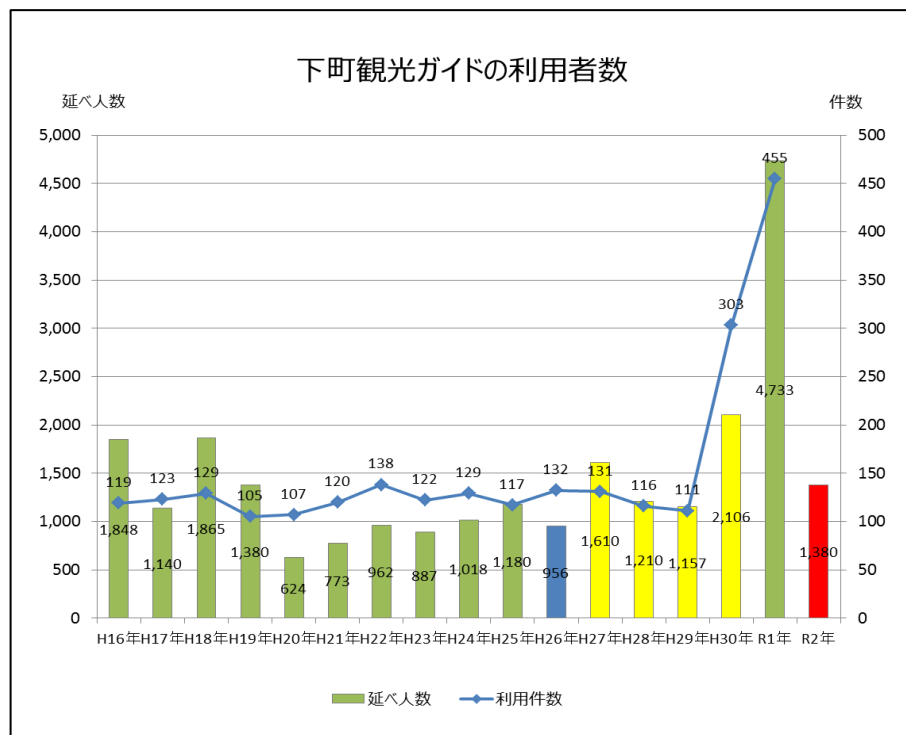
●目標達成の見通し及び今後の対策

文化施設の利用者数については、好調に推移しており、コンベンションセンターの改修が終了したこと、文化ホールのイベント利用者数が増加したことが要因として挙げられる。今後予定されている「山陰歴史館整備事業」の実施や、SNS を駆使した魅力の情報発信による継続的な利用者数の増加により、目標達成は可能であると見込まれる。

なお、平成 26 年度の数値は認定前の調査による。

「下町観光ガイドの利用者数について」 ※目標設定の考え方基本計画 P73～P75 参照

●調査結果の推移



年	(人／年)
H26	956 (基準年値)
H27	1,610
H28	1,210
H29	1,157
H30	2,106
R 1	4,733
R 2	1,380 (目標値)

※調査方法： 米子市観光協会と米子まちなか観光案内所がとりまとめている利用者数を集計し、把握

※調査月： 令和2年1月（前年1月～12月の合計）

※調査主体： 米子市

※調査対象： 城下町観光ガイド利用者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰歴史館整備事業（米子市）

※基本計画における目標数値達成のための事業

山陰歴史館整備に伴う増加 増加見込み 111 人に係るもの

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～平成31年度]
事業概要	米子城跡のガイダンスや城下町観光の拠点施設としても機能するように整備し、市民や観光客が気軽に訪れることができる環境を整える。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年度に米子市庁内プロジェクトチームを組織し、施設の利活用の検討を重ねている。平成31年度は、多彩なソフト事業の展開を通して入館者数の増加につなげた。整備の完了により、111人の城下町観光ガイド利用者数増加を見込んでいる。
事業の今後について	整備については、山陰歴史館がある市指定文化財建物の利活用に資するためのサウンディング調査を実施中であり、その結果も勘案しながら、

	今後の整備の方向性を検討していく。利用者の拡大については、企画展などを充実させるとともに、「米子城・魅せる！プロジェクト事業」等との連携を図り、山陰歴史館のさらなる利用拡大を図っていく。
②. 城下町米子観光ガイド(米子観光まちづくり公社)	
※基本計画における目標数値達成のための事業	
新規ルート設定による増加 増加見込 22 人に係るもの	
事業実施期間	平成13年度～ 【実施中】
事業概要	地元ボランティアガイドによる城下町の観光案内。 平成28年度からは既存のモデルコースだけでなく、新規コースの開発にも取り組むことによって、リピート客への対応や多様なニーズを受け入れる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年4月よりガイド事業を「米子観光まちづくり公社」が行うようになり、リピート客への対応や個人旅行客の多様なニーズに対応することが可能となった。これにより、利用者の大幅な増加につながっている。新たなコースの設計など、新規の顧客の取り込みも積極的に行っており、今後も利用者の増加が見込まれる。
事業の今後について	一層の官民の連携を図り、観光ガイド利用者の増加に努めていく。
③. まちなか「小路」案内板設置事業（よなごの88選実行委員会）	
事業実施期間	平成26年度～30年度 【済】
事業概要	中心市街地に残る約400年前の「町割り」を形成する「小路」の位置や名称を特定し、案内板を設置する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成26年度11枚、平成27年度16枚、平成28年度4枚の案内板が設置された。これにより市民や観光客を城下町の面影が濃く残る町並みへ誘導し、「小路」の歴史や魅力をより感じながら散策することができるようになり、城下町観光ガイドの充実と交流人口の増加につながった。
事業の今後について	事業は平成30年度に完了しており、事業成果を活用することで、観光ガイドの充実と交流人口の増加につなげたい。
④. 米子のまち 小路めぐりマップ作成（よなごの88選実行委員会）	
事業実施期間	平成27年度～30年度 【済】
事業概要	まちなかの「小路」の歴史的な背景を学ぶと共に、現代の町の魅力や歴史的背景を味わえるよう、楽しいまち歩き提案とマップを作成する。
国の支援措置名	国の支援措置なし

及び支援期間	
事業効果及び進捗状況	29年3月にマップ完成。市民や観光客を城下町の面影が濃く残る町並みへ誘導し、「小路」の歴史や魅力を感じながら散策することにより、交流人口の増加につながった。なお29年度末には、集大成としてガイドブック「よなごの小路八十八選」が発刊され、30年度には増刷をしている。城下町観光ガイドやまち歩きイベントでの活用が期待されている。
事業の今後について	事業は平成30年度に完了しており、事業成果を活用することにより、観光客の満足度の向上やリピーターの増加につなげたい。

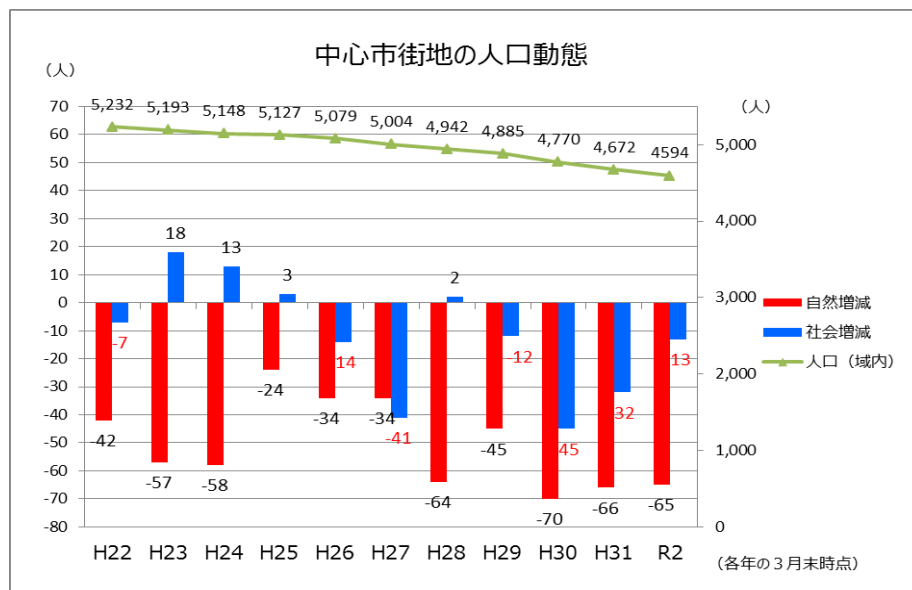
●目標達成の見通し及び今後の対策

平成30年4月から観光ガイド事業を「米子観光まちづくり公社」が実施することになった。そのことを契機に観光ガイド利用者が大幅に増加し、昨年度に引き続き目標値を大幅に越える利用者数となった。

今後も、官民が連携して利用者数の増加に努め、「まちなかを巡るモニターツアー」や「ブローガーを活用した情報発信」を積極的に行うことによってまちなかの魅力をPRし、個人旅行者の取り込みやリピーターの増加につなげることで、目標達成は可能であると見込まれる。

「人口の社会増減について」※目標設定の考え方基本計画 P76～P79 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H27	H22～27年の平均 -5人 (基準年値)
H28	2人
H29	-12人
H30	-45人
H31	-32人
R 2	-13人
R 3	H28～R3年の平均をプラスに (目標値)

※調査方法：住民基本台帳から集計

※調査月：令和2年4月（前年度4月～3月）

※調査主体：米子市

※調査対象：中心市街地区域内

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 民間共同住宅建設事業（民間事業者）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	民間事業者による共同住宅の建設
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年度 3棟（110戸） 竣工 平成28年度 3棟（48戸） 竣工 平成29年度 1棟（3戸） 竣工 平成30年度 1棟（18戸） 竣工 令和元年度 建設なし 令和元年度においては、計画範囲内での民間共同住宅の建設がなかったが、現在1棟（55戸）の建設が進んでおり、次回調査時にこれらの民間共同住宅の効果が現れることを期待している。
事業の今後について	中心市街地の高い機能性や利便性を情報発信し、民間事業者による開発の後押しをしていく。

②. まちなか空家活用プロジェクト（米子まちなか空家活用プロジェクト運営会議）

事業実施期間	平成25年度～ 【実施中】
事業概要	空き家を改修し、地域交流スペース機能を備えた若者向けシェアハウスの整備及び「岩倉ふらっと」の管理・運営
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	新規物件については掘り起し中。 「岩倉ふらっと」は学生向けのシェアハウスとしての活用や、地域に開かれたイベント拠点として活用されており、令和元年度は2回開催した。
事業の今後について	他団体とも協力して新規物件の掘り起こしを行い、「岩倉ふらっと」においては安定した管理・運営につとめる。

③. 超小型モビリティ導入実証実験事業（(株)岡田商店）

事業実施期間	平成26年度～29年度 【済】
事業概要	超小型モビリティ（1～2人乗りのコンパクトなEV）を使った新たな交通サービスを提供し、中心市街地の回遊性の向上や、便利で暮らしやすいまちの機能向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成26年11月～平成29年11月の期間で、新たな交通サービス創出の足掛かりとなる超小型モビリティによるカーシェアリングサービスの導入実証事業を実施した。事業期間中の利用件数は累計26件であり、米子市で運行した車両の利用は低調に終わっている。
事業の今後について	実証実験事業としては平成29年度に完了しており、地域住民によるカーシェアリング的な活用は現段階で見込まれないこと、特別な維持点検費がかかり採算性に課題があることが明らかとなった。今後、事業により得られた知見を活用し、中心市街地の回遊性の向上や、便利で暮らしやすいまちの機能向上を検討していく。

④. EVカーシェア事業（(株)岡田商店）

事業実施期間	平成26年度～29年度 【済】
事業概要	EV（電気自動車）・PHV（プラグインハイブリッドカー）を使ったカーシェアリングサービスを提供し、便利で暮らしやすいまちの機能向上、及び安心なまちづくりの推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成26年4月～平成29年4月の期間で、新たな交通サービス創出の足掛かりとなるEVカーシェアリングサービス事業を実施した。事業期間中の登録会員数は37名であり、米子市で運行した車両の利用は低調に終わっている。

事業の今後について	事業としては平成 29 年度に完了しており、地域住民によるカーシェアリング的な活用は現段階で見込まれないことが明らかとなった。今後、事業により得られた知見を活用し、中心市街地の回遊性の向上や、便利で暮らしやすいまちの機能向上を検討していく。
-----------	--

⑤. 空き家活用プロジェクト「わだや小路」事業（NPO 法人まちなかこもんず）

事業実施期間	平成 27 年度～ 【実施中】
事業概要	空き家を活用した、レンタルスペース、レンタルオフィス、ゲストハウス・多目的トイレの整備及び「わだや小路」の管理・運営
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 27 年にレンタルスペース、レンタルオフィス、ゲストハウス・多目的トイレを整備し、平成 28 年初めに多機能な地域コミュニティ拠点施設としてオープンした。新たな地域コミュニティの拠点として魅力ある地域づくりに貢献している。
事業の今後について	今後も整備したスペースと設備を活用して、多機能の地域コミュニティ拠点施設としての「わだや小路」の管理運営事業を行い、魅力ある地域づくりを行っていく。

⑥. 移住定住推進事業（お試し住宅）（米子市）

事業実施期間	平成 26 年度～ 【実施中】
事業概要	米子市への移住・定住を希望している者を対象に、一定期間居住してもらうための「お試し住宅」の運営
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	中心市街地のお試し住宅を含む 3 軒を運営しており、市外からの中心市街地への移住に貢献している。令和元年度における中心市街地のお試し住宅利用は 8 件、15 人であり、3 世帯 6 人の移住につながっている。また、移住後には移住者支援団体と連携した交流会への参加をとおして定住の促進を図っている。
事業の今後について	今後もお試し住宅の運営、交流会への参加をとおして、中心市街地への移住・定住の促進に繋げていく。

⑦. 移住定住相談窓口の設置（米子市）

事業実施期間	平成 26 年度～ 【実施中】
事業概要	定住に関する制度や支援策を積極的に情報発信するとともに、ワンストップの相談窓口を整備することにより、本市への IU ターンを促進する事業。
国の支援措置名	国の支援措置なし

及び支援期間	
事業効果及び進捗状況	IJU ターンを希望する相談者に対し、就職、子育て、医療、高齢者サービス、住宅の紹介等をワンストップサービスで実施。東京及び大阪で開催された県定住機構主催の移住定住相談会に参加し、IJU ターン希望者の相談を実施している。また、市のホームページ、SNS、移住定住ガイドブックを活用し、積極的に情報発信を行っている。令和元年度の相談件数は、248 件となっており、189 人の中心市街地への移住につながっている。
事業の今後について	今後も情報発信、移住相談をとおして、中心市街地への移住の促進を図っていく。

⑧. 高齢者地域コミュニティ支援事業（NPO 法人地域福祉ネット）

事業実施期間	平成 24 年度～ 【実施中】
事業概要	介護保険など公的サービスで対応できない高齢者の生活、暮らしの安心、安全の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	有償ボランティアによる高齢者の生活支援サービス（まちなかサービス）を行っており、介護保険に該当しない高齢者に対し、相互扶助型のサービスを提供している。また、認知症患者とその家族が運営するカフェや、認知症予防プログラムの実施など、地域の高齢者コミュニティの支援も精力的に行っている。
事業の今後について	まちなかサービスの一層の利用増加と協力会員の増加をとおし、高齢者の生活、暮らしの安心、安全の向上を図っていく。

⑨. 米子市中心市街地総合情報発信事業（旧中心市街地情報提供事業）（NPO 法人まちなかこもんず）

事業実施期間	平成 21 年度～ 【実施中】
事業概要	中心市街地に関する空き家・空き店舗情報やイベント情報などの起業・U ターン・居住などを支援する様々な情報を、WEB ホームページをとおして総合的に提供することにより、中心市街地の再生・活性化を図るための事業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	古民家をリノベーションしたシェアハウス、シェアオフィスの物件情報の提供をとおしてまちなかでの居住、起業の促進を図っている。
事業の今後について	今後も引き続きホームページでの情報発信をとおして起業・U ターン・居住などを支援し中心市街地の再生・活性化を図っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の人口の社会増減については、令和元年度は昨年度に引き続きマイナスとなった。

これは、民間共同住宅の竣工に伴う転入者以上に転出者があったためと考えられる。

人口の社会増に効果の高い大規模集合住宅は、中心市街地の周辺部で建設が続いているが、中心市街地内に誘導できていない状況である。

今後も、中心市街地の高い機能性や利便性を情報発信し、民間共同住宅の建設や空き家活用を促すことに積極的に取り組んでいくとともに、現状では目標達成可能とは見込まれないことから、対策について検討を重ねる。